

市内にある51の地区社協の中から 旭正地区社会福祉協議会を紹介します



旭正地区社協（東旭川町旭正、東旭川町忠別）では、安心見守り事業やふれあいサロン事業などを実施してきましたが、今年9月から「買物送迎サービス」と「地域送迎サービス」を新たに実施しています。



旭正地区社会福祉協議会
こにし おさむ
小西 修 会長

地域住民を対象としたアンケートを東旭川・千代田地域包括支援センターの協力を得て実施した結果、移動手段に困っている方が多いことが判明しました。そこで、「就労継続支援施設チーム紅蓮」から車両を借り、自身で買物に行くことが難しくなった高齢者を自宅からスーパーまで月2回送迎する「買物送迎サービス」を開始しました。

また、「地域送迎サービス」は、毎月開催されるふれあいサロンの参加者を、自宅から会場まで地区社協の役員が自家用車で送迎しています。

サービスを利用しているのは一人暮らしの方が多いため「こういう機会があるから、皆さんとってお話ができ楽しい」といった声を聞いています。このサービスによって、地域の高齢者が外出し、楽しくおしゃべりをする機会が増えると幸いです。



災害ボランティアセンター

登録・受付訓練実施

旭川市社会福祉協議会では、11月25日に旭川市ときわ市民ホールで、地震や洪水などの災害が発生して災害ボランティアセンターを開設することになった場合、限られた職員で効率的にセンターを運営できるよう、「登録・受付訓練」を実施しました。

訓練には、災害ボランティア登録者、旭川市防災課の職員など、28名が参加し、北海道社会福祉協議会が導入したインターネットを介して提供されるシステムを使用して、各種作業を体験しました。

講師の戸航瓶さん（北海道社会福祉協議会）から、実際に被災地で支援した際の現場の様子やシステムの活用例について説明を受けた後、ボランティアの活動予約や当日受付の作業を、参加者のスマートフォンを利用して行いました。情報がシステム上で自動的に集計されることなどがわかり、事務作業の負担が大幅に軽減されることから、その余力を被災者支援に充てられることを実感しました。

市社協では、万が一の場合に備えて迅速に対応ができるよう、今後も訓練を行う予定です。



社協 はじまりは あなたの笑顔から あさひかわ

このページは、赤い羽根共同募金の助成を受けています

共同募金運動期間
10月1日～12月31日



ご意見・ご質問を募集しています！「旭川市社会福祉協議会」まで
社会福祉法人 旭川市社会福祉協議会
https://www.asahikawa-shakyo.or.jp
【5条事務所】〒070-0035 旭川市5条通4丁目 旭川市ときわ市民ホール1階
TEL 23-0742 / FAX 23-0746 Eメール kikakusoumu@asahikawa-shakyo.or.jp
【神楽事務所】〒070-8003 旭川市神楽3条4丁目1-18 TEL 60-1755 / FAX 60-1790



旭川藤星高校 藤星お助け隊

旭川藤星高校では生徒の有志により、地域でボランティア活動を行っています。今回はその活動を紹介しますとともに、ボランティア活動の調整役を担う河合先生にお話を伺いました。



散策ウォーキングの様子(令和5年6月)

「おがる」とは？

方言で「成長する」「大きくなる」という意味。このページでは、地域活動で活躍する皆さんを紹介いたします。



除雪ボランティアの様子(令和5年2月)

藤星お助け隊の特徴

藤星お助け隊は令和4年度から活動を始めました。特定の活動に限定せず、地域から寄せられたボランティアの依頼に応じてその都度有志を募って活動することが特徴です。時には天候や学校行事の都合で延期や中止になることもありますが、活動の幅は年々広がってきています。当初は除草や除雪などの活動でしたが、今年度は春光東地区社会福祉協議会企画の『散策ウォーキング』の活動支援や共同募金運動への協力も実施しました。

活動内容を企画するに当たっては、春光東地区社会福祉協議会を窓口として、必要に応じて地域包括支援センターや地域まるごと支援員等の専門職を含む会議を開催し、地域の方も生徒の負担にならないようにと意見交換しながら調整を行っています。

旭川藤星高校 河合美菜先生

「一人ひとりの咲くべき花を咲かせる」という本校の教育目標達成のため、生徒は勉学、部活動、生徒会活動、実行委員活動など、「他者のために他者とともに」という心のモットーを大切にしながら活動しています。その中でも、ボランティアは生徒の自主性から成り立っている活動です。誰かのためにというキリスト教の愛の精神に基づき、地域の皆さんのために少しでもお役に立てたらと考えています。一人ひとりの持つ優しさ、温かさで地域貢献の一助を担えるよう、今後も活動していきたいと思っています。